



## 宮本常一 『忘れられた日本人』

### 中野真備

本書は、「旅する巨人」と称された民俗学者・宮本常一の代表作である。宮本の旅路に沿うように記述される作品群には、西日本の村の特質を描写した「村の寄り合い」など、全13篇が収められる。老人たちの方言まじりのやりとりや収録写真からは、確かにその時代に存在していた、当たり前前の風景が鮮明に浮かびあがる。本書は、既成の民俗学に抗して「生きた生活」と徹底的に向き合い、庶民の「生活誌」という独自の民俗資料を確立させた、不朽の名作である。

宮本が描いた人びとは、いまとなっては、まことに「忘れられた日本人」のすがたであろう。しかし、庶民の生活を、実感を通して観察する視点は、色褪せることがない。アジアの国々に足をはこぶと、屋台を押して歩く商人たちや、手仕事のかたわら、噂話に花をさかせる女たちに、遠い日本の、在りし日の風景に想いを馳せることがある。

急速に発展しゆく、アジアの国々。今日も当たり前前の日々を生きる人びとが、「忘れられた人」となる日も来るのだろうか。



## 出典:

- 宮本常一『忘れられた日本人』（未来社、1960年／岩波文庫、1984年、ワイド版1995年）

## 関連リンク

- 宮本常一データベース（周防大島町による作者情報、画像、著書、蔵書の資料）  
<http://www.towatown.baobab.or.jp/database/index.asp>
- 宮本常一チャンネル（山口県周防大島にある宮本常一記念館／周防大島文化交流センターが、宮本常一に関係する資料、周防大島を中心に瀬戸内海の民俗文化を紹介する公式YouTubeチャンネル）  
<https://www.youtube.com/channel/UCu9UpK3TXxVvokTMmbDhafA>